城山小学校　第８５５回平和祈念式　　令和４年１０月１１日

この日は，855回目となる平和祈念式で，朝から６年生が献花用の花を持ってきてくれました。ありがとうございました。

今日の祈念式では，２年生の先生から本校のシンボルでもある「少年平和像」についてのお話がありました。

〇少年平和像が建てられたのは今から 71 年前で，長崎に原子爆弾が落とされてから６年後のことである。

〇城山小学校のほとんどの子どもたちが，原子爆弾で亡くなった。生き残ったわずか 20 数人の子どもたちも，家族や住む家をなくしてしまった。

〇城山小学校の校舎も壊れていたので，生き残った子どもたちと先生方は，稲佐小学校で勉強を始めた。

〇雨や雪が降りこむような中での勉強だったが，子どもたちは休まずに学校にやってきた。家族も家もなくした子どもたちにとって，学校で勉強ができることは，とてもうれしいことだった。

〇原爆が落とされて３年後，ようやく城山小学校に戻ることができた。この頃，生き残った城山の人たちの中から，こんな話が出てきた。

「原爆で亡くなった先生や子どもたちのみ霊を慰めるために，そして，二度と原爆のような怖ろしいものが使われないことをお祈りするために“平和の児童祈念像”を建てよう」

この話は，どんどん進み，あちこちからそのためのお金が集まった。そして，71 年前の８月８日，【少年平和像】が完成した。

〇この像のモデルは，原爆で両親を亡くした小学５年の男の子である。住む家も着るものもなく，亡くなったお父さんのズボンを焼け跡から見つけ出し，すそをまくり上げてはいている。ベルトもないので，わら縄でしめ，くつもないので裸足で立っている。この少年は，原爆の惨禍を生き残り，稲佐小学校の教室を借りて勉強していた頃の城山小学校の子どもである。

〇少年の左腕には，平和を願う鳩，足元には，原爆で亡くなった方の魂が安らかであることを願う鳩がいる。父や母を亡くし，寂しく心細いはずなのに，この少年は「お父さん，お母さん，僕は寂しがらずに元気で，人類の幸福のため世界平和を叫び続けます」と言っていると言われている。

〇平和像の台座には「平和」という文字が刻まれている。これは，１年生のときに原爆にあい，奇跡的に生き残った菅原耐子さんが書いたものである。耐子さんは，祖父母・母・二人の姉・弟・妹の７人の家族を原爆で亡くした。家族の仏壇の前に座り，何度も繰り返し「平和」おｎ文字を練習し，願いを込めて書いたものである。

〇少年平和像には，「世界平和を叫び続けます」と誓った少年や，何百回も「平和」を書き続けた耐子さん，そして，亡くなったたくさんの子どもたちの平和を願う強い思いが込められている。その思いを，城山小学校のみんなで，未来へ引き継いでいきましょう。